夕刊
磐城新聞
七月二十五日發行
（日曜祭日翌日休刊）

白鳥吟行記

（下）

伊藤寒山子

はるか來て湯壺に咲ける藤眞白

のろ〳〵として佳い句が生れさうだ。明朗三人は笑ひを爆發させて幸資子を煙にまく。しかし隣の客を心配するあたり仲々よい

二三本立てゝ句を案ずるのだからよい句は出ない。ねむくなつて寒山子なんか得意のうたねをしてゐる。遂に明朗披講と云ふことになつた。題はよいんだがなと思つたのは僕ばかりでなささうだ。幸資子が『朗は大部やかましいんだからそのつもりで』と云ふので『あゝさう』と氣にもとめずに、夢はめぐつた。突如！すさまじいおどろ〳〵なる音のしてねむりやぶられ、うつら〳〵の中に、幸資子君の言つたのはこれであると考へ、やゝ靜まつたので、其のまゝまどろんだすがしい朝の光りに目覺めると、新緑の木にはきらりと玉をつらねて光つてゐるさてはあのおどろおどろなる音は雷雨であつたのか『白鳥では毎朝あんな雷雨が……？』ときいて、幸資子君を面くらはせたものだはんとにすごい雷雨であつた。朝湯に、湯壺に下りると、おばあさんたちが（女ですぞ）『ずゐぶんひどかつたない。めつたないのし！』とかたりあつて居る

披講。別記が句が生れた何鳴氏、急なる所用にて歸らる。後の三人、弓をひき乙は氣力を發ひ、日上れば蕨がりを行ふ。松疎うにして、やはらかき風たえず吹く。早わらびここの籔のなか、かしこの小草の中にあり、別れし山にもかゝはらず

あなわらび幸資よゝとよろこべり

と云へば

わらびがり吾妹の唇をふと欲りぬ

と情熱の瞳をかゞやかす

あなとかげわらびの籔にひそみけり

とおどろいたのは誰か？

汗ばみし掌に早蕨のふれる程に、乙女のむれに逢ふともに吹ひつゝ松籟ふかくさまよふ

わらびがり松籟ふかくさまよへり

疲れて歸る。宿の二階、幸資子君の自慢の藤波が風にゆられるのを見て居るうちにまどろむ。夢に入りしは吾妹ならん

青蔭の諸氏よ！　幸資君を是非だづねて呉れたまへ病氣恢復後の彼氏の精力はものすごいですぞ。弓などは的どころか矢場を越す勢おそれ入る。あの勢で句作に編輯に頑張るのだから瞠目してしまふ

吟行報にならないかたやぶり、乞ふあえてとがむるなかれ。諸氏が許ねられるとより上ですぞ

バラ

大竹秋平

私に質問も答もない
人間が私に豫期するやうな表現の用意もない
星が焼き　花が咲き
南風がそよそよと吹き
それで十分だ
空虚を語り給ふな
瑣事を談じ給ふな
第一君は詩論を書いてはいけない
仙女をバーゲンにして仕舞ふ位恐な事はあるまい
君は少くも滑稽家だ
私は君の爲に驚かされた
私と共に　私の花園へ來給へ
薔薇も君のやうに
（原料をつかみ）とげの
『ミリヨク』で
詩を書くと思ひ給ふな

句帳から

よべの月殘りて明けぬ夏野かな　哲郎
夏の野の薄き濃き雲の眞晝かな　森里
陵の道を尋ぬる夏の野かな　蕩々
縱横に疏水流るゝ夏野かな
何やらのほゝけて飛べる夏野かな　藤舍
蔦の葉の裏風白き夏野かな
草に入る大日輪や夏野原　鈴々子
陸奥の道は遙けし夏野原
乏しくて親しめる灯や夏野原　里雪
高原を下る汽車速き夏野かな

端午書感

珠雲　小野務平

忠貞淸白不勝塵
顯逵或看心境貧
海濁巨鯨猶踴躍
超然我只學靈均

7月26日　△太田道灌刺さる（文明一八）△布哇ホノルヽ、に我領事館設置（明治一七）△英文豪バーナードショー生る（一八五六）△平町會は地下採掘二年留保答申を決定（昭和一〇）

7月27日　△幕府町人の長脇差を禁ず（天保一四）△佛劇作家デューマ生る（一、八二四）△平で丸山元警視總監等の選擧講演會（昭和一〇）

小説　高橋是清

（75）　松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

あそびの味（五）

福井屋數右衛門に會てつ

『どうだ。置いて呉れぬか？』

言ふと、數石衛門、今は一も二もなかつた。癖で額を叩くと

『あらつしやい。いつでも結構です。へえ、陰膳据えて待つて居ます。なんの先生、他の家ぢやあなし、端唄の文句ぢやありませんが誰に氣兼ねが要るものか。近間にもそれ、日本橋と言ふ街がありますからな、へッへッ……』

と、卑しく笑つた。和喜次も顔を合せて苦笑しながら

『なにしろ、窮屈で叶はんでな』

『推量々々』

『頼むぞ』

日本橋から歸ると、夜に入るのを待つて、フルベツキ博士の部屋の扉を叩いた。博士の部屋には常時段々使用者が増して來てはゐたものゝ一般にはまだ〳〵珍らしく『らむぷやらこつぷの棚につき當り、つうぬきとめぬ玉ぞ散りける』などと詠はれた、洋燈の灯があか〳〵と灯つてゐた

『お入り』

と、言ふ聲を待つて入ると、博士は書架に對した卓子に寄つて讀み耽つてゐたらしい、分厚な書物を閉じて

『おかけなさい』

椅子を差して、

『遠慮要りません、どうしましたか？』

と、人なつこく言つた

『は』

和喜次が腰かけるのを待つて

『勉強出來ますか？』

『お蔭で』

『結構です、御用は？』

和喜次は多少氣まづさを感じながら、博士の額から眼を反らして

『實はちと申入れたい事が……』

『どんな事ですか？』

『は。ちと都合がありまして、知人の許へ移りたいと思ひます。許して戴きに參りました』

言つて、博士の表情の動きを窃視みた。博士は瞬間ちらと眉間に暗い影を見せて

『さうですか』

と、嘆息するやうに言つて

『誰にも都合あります。仕方ありません宜敷いでせう何處へ移りますか？』

靜かに質いた

『日本橋の知人の家です』

『さうですか。貴方の御一身に就いては森さんから懇々頼まれました。が、御都合では仕方ありません。たゞ森さんの御信頼を裏切る事ありませんやう、注意して下さい。人間は弱いものですから――蛆のやうに。負けさうになつた時は、森さんの御信頼を考へる事が宜敷いと思ひます』

『は』

和喜次は、一切を見抜いてゐるかのやうな、博士の言葉に冷たいものを兩の脇下に意識して

『御教訓有難う存じます』

博士は、手を伸べて前の書架から黒い表紙の一冊を拔いて

『けれども、歸つてお出でになりたい時は、いつでも構ひません。又歸つて來て下さい。それから、これを上げませう。聖書です。毎日一度づゝは必ず繙いて一章でも半章でも忘れずに讀んで下さい。神が必ずその中から呼びかけて正しい勇氣をお與へ下さるでせう』

『頂戴致します』

和喜次は俯向いて受けた去らうとすると

『橋さん！』

博士が呼止めて

『必ず負ける事はいけません必ず勝つ事に努力して下さい！』

言つて、優しく肩を叩いた

『は』

和喜次は逃げるやうに部屋へ戻ると、敷き放した儘の寢床の中へ、大急ぎで跳び込んだ

深い吐息が何度か出た

童話　魔物を食べた木馬

九

阿部頼俊

『い……え、そ……その首のない』

『首ない、あーよかつた。一体何だい』

『あの、首なし馬』

『く……首なし馬、そんな馬なんてをらんわい』

『い……え、それに乘つた黒い惡魔』

『何だつて、黒い惡魔が欲しい』

『い……え、そ……それに喰はれるんです』

『わつ！そ……その惡魔に喰はれたい、お前が』

『わ、今夜です』

『何だつて、こんにやく？……』

さあ王様もお傍の家來も何が何だかさつぱり分らなくなつた

『待てよ。初めに首と、次に首無し馬、次に夫れに乘つた黒い惡魔、それに喰はれたい、こんにやくと、何だか分らん。太郎や、お前一体何を考へてゐるのだい顔が眞蒼ぢやないか、遠慮なく心配があるなら云つてごらん』

王様の優しい言葉に安心した太郎さんは、嬉し涙にくれて、あの日の恐ろしいことを全部申上げました。王様始め家來達が非常に驚いて

『よし、それなら私がその惡魔を退治して上げよう。お前達は一歩も外へ出てはならないよ』

王様は直ちにお父さんと利子さんをお呼びになつてお城の奥のお部屋へ入れて多勢の兵隊に見張りを命じられました

○

やがて恐ろしい惡魔との約束の夜が來ました。今夜に限つて西の空は赤い眞赤な血の様な色に輝き、小鳥達は皆あわてゝ寢倉に飛び込んで行きました

『利ちやん許してね、でも利ちやんが殺されるなら兄ちやんも死ぬよ』

廣告

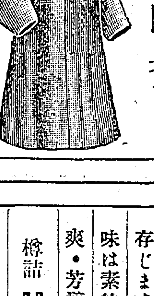
婦人清涼着とカンタン服特賣
平町三丁目　電話六一三
信用堂洋服店

ダイナモ
バツテリー
マグネツト
電氣ドリル
船舶用發電機
日本瓦斯工業株式會社
瓦斯發製機代理店
平町紺屋町
久野電機
電話七二一番

松村醫院
院長　松村鐵郎
平町南町電一〇七

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

雨の日の活躍は敷島の雨具で
㊟完全防水の雨具は專門店
絕對防水を誇る！
作業用モヂリ
强ゴムマント
各種雨衣シート、レーンハット（防水帽）
自轉車用前掛、其他雨具一切
防水布製品專門製作
敷島テント店
平・六丁目



精神病科
腦脊髓病科
神經病科
内務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山驛より約三十丁　安積中學より約五丁
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
入院隨時
院長醫學士　金森五郎

躍進途上ノ植田町ニ
愈々來ル七月廿六日開業
公認　合資會社　植田魚市場
毎日開場　午前四時ヨリ
常磐線植田町　電話一四五番
電略〇ウ　植田私書函十二號

公社債株式現物賣買
照山株式平支店
主任　常盤光威
福島縣平町田町五
振替東京八八一六三番
電話四十六番

小店員募集（十五、六才）
委細面談

自轉車・リヤカー
品質本位と正直な値段
フタバ商會
平・新川町郵便局前
谷屋呉服店トナリ

おとくゐ様
お蔭をもちおでんは大評判！
皆樣のいつも變らぬお心入れほんとに有難う存じます。
味は素的！
爽・芳醇味豐かな、眞のビールの醍醐味は
樽詰　サツポロ生ビール
によつてのみ會得出來ます。
（愈々二十四日より始めました）
小料理　おでん
一平
電二六三

磐城の御みやげ品
名物　靈峰羊羹（みやま）　金十錢
姉妹品
柿羊羹。のり羊羹。
沼ノ內辨天羊羹。
御旅のお出入には好個のお土産品です。
小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元
小川郷驛前
平屋賣店

電話番號變更
五十嵐產婦人科醫院
平町新川町一二
醫學博士　五十嵐雄二
電話三六九番
（入院應需）

國はニッポン・魚は凍魚
御用命は
日本水產特約
平製氷會社
電二二八・三二六番
鯛　銀鯛　北寄貝
ヒビ　甘鯛　帆立貝
白魚　甲イカ　目抜切身
ロクサギ　鰹　うに貝燒
ピ印マル凍魚
代理店　四丁目
ト印魚問屋
電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

ほねつぎ
平町公園下
桑原柔道整骨院
電話六七四

強剛福商を粉碎して 東北大會出場權獲得

痛快な今日の準決勝戰績

磐中野球

縣下中等校野球大會第三日に進んだ磐中軍は終始Bクラスを定評され乍ら最初から優勝最有望を目された福商と對戰、後半以後の健鬪に俄然顚倒のスコアを見せて優勝、明第四日の決勝戰に進み又東北大會（山形市）に出陣することになつた

◇

第三日今二十五日磐中對福商戰は午前十時から市營球場で福商先攻開始、十A對四で磐中勝つ、閉戰午後零時半

福	2	0	0	0	1	1	0	0	0	4
磐	0	0	0	0	0	8	0	2	A	10A

善戰平商を屠る

一般を呆然たらしめた 磐中二日目の活躍

第二日昨二十四日磐中對平商戰は午後四時十三分から市營球場で平商先攻開始、十一對一（コールドゲーム）で磐中勝つ、閉戰五時五十七分

平商	0	1	0	0	0	0	0	1
磐中	2	0	0	0	7	0	2	11

バッテリー（磐中）秋山－水野芳（平商）橋本－會澤 會澤－間宮

◇

平商の敗因に就き飯田主審の談に依れば

兩軍共に技術は伯仲で一二回までは接戰を豫想されたが、三回橋本投手走者の時倒れて退いたことが平商全軍の士氣を沮喪し敗因となつた、同情すべきであるが最後まで善戰した事は嬉しい、技術上では兩軍まだ〱研究の餘地多くチームとしては未完成、二流所であらう

必勝を期す 地元磐中平商二校選手

意氣既に衝天の概

地元二校の出場選手左の如く何れも必勝を期し意氣衝天の概を示してゐる（括弧內は學年）

磐中 △競技 百渡邊武治（三）二百鈴木源一（五）四百木田志雄太（四）八百關場毅（正）五千大野章雄（五）走高松本久（五）三段武藤義明（五）走巾小林安友（五）棒高相澤義雄（四）八百繼走渡邊淸吉（四）棒高大井川光男（五）八百繼走[illegible]山 久保木淸次（二）泉瀨（三）蒲田 野 小林 武藤 國井俊一（三）△器械體操 小野富房（四）坂本繁（四）山田二郎（四）

平商 △競技 百加澤清（三）二百上田一政（三）四百蒲田力之助（五）八百金成久吉（四）五千古市勝美（四）走高西山正之（四）三段新妻一榮（二）走巾

土燃ゆる高月台上

縣下中等校爭覇戰

明後日早朝來の壯觀

縣下男子中等學校体育聯盟の第十五回体育大會の左記陸上競技並に器械体操は愈々明後二十七日午前七時から磐城中學校グラウンドで催される、出場は（△印は陸上競技のみ）

1 喜中 2△川工 3 福中 4 双中 5 田中 6△會工 7 福師 8 蠶農 9△郡工 10△平商 11 安中 12 逢中 13 相中 14 會中 15 福商 16 白中 17保中 18△若商 19磐中

の十九校、器械体操は十四校、選手延五百（賞人員二百餘）を起ね、制覇の熱に燃える之等選手の健鬪により新記錄續出が期待されてゐる

△トラック 百 二百 四百 八百 五千 八百繼走

△フィルド 走高 走巾 三段 棒高

△器械体操 鐵棒 跳躍

郡第三區兒童競技

十六校の精銳覇を爭ふ

郡第三區兒童競技會は今二十五日午前七時から平商並に平第一兩校庭で開催、正午迄判明の成績左の如し

△五十米（五女）平二飯塚喜久子八秒二

△百米（五男）平一川崎繼男一四秒九（六男）平三坂本五郎一四秒＝對記錄（六女）平二木村ケイ一四秒九（高一女）平二鈴木光子一四秒九（高二女）平二渡邊マキ一五秒＝新記錄

△籠球投（五男）好高申忠一二一米五八（五女）平三山野邊キミ一七米三三（六男）內高近藤榮三二米三九（六女）平二石和悅子一九米二八（高一男）平一根本健三三米五八六（高一女）好高山野邊喜美二〇米一

△三段跳（高一男）平一新妻唯男九米六九

△走巾跳（五女）平二井上高子三米四二（高一女）內高佐藤トヨ三米八五（高二女）平二植松喜美子四米一六

山田村更生委員會 昨年度經濟更生村に指定された山田村では今二十五日午後一時から郡駐在吉成技手を招き小學校で更生計劃施行に關する委員會を開いた

。。。。。。

中堅農民現地講習 石城中堅農民講習生約百名は來る三十日郡農會柴田技手に引率され平窪村の果樹園で現地講習を行ふ

。。。。。

蠅取デー延期 いはき新報社主催『蠅取會』は來月一日の處同月十日から二日間に延期された

四倉町自營會資金募集

四倉町では平自營會の事業資金募集に關し昨二十四日關係者が町役場に參集これが募集方法に關し協議した

。。。。。。

四倉署風紀取締 四倉署では今二十五日午前九時から管內料理店主等を招き海水浴客に對する風紀上に關し種々注意した

ハチ切れる元氣で 健康群像の跳躍

あす磐炭、入山陸上競技

磐炭對入山陸上競技は明二十六日の公休をトし午後三時半か、入山グラウンドに於て行ふが兩軍の陣容次の如し

〔入山〕（一〇〇米）西田 富澤 增子（四〇〇米）西田 蒲田 坂內（一、五〇〇米）遠藤 佐藤 高木（五、〇〇〇米）遠藤 菅山 平馬（走巾跳）佐藤 森山 西田（走高跳）森山 富澤 青野（砲丸投）青野 加藤 遠藤（圓盤投）青野 佐藤 遠藤（棒高跳）青山 佐藤 青野

〔磐炭〕（一〇〇米）丹野 瀧口 坂本（四〇〇米）大谷 塞河江 坂本（一五〇〇米）小板橋 小池 工藤（五、〇〇米）工藤 佐藤 小池（走巾跳）花澤 丹野 高橋（砲丸投）鈴木 伊藤 高橋（圓盤投）鈴木 中井川 高橋（棒高跳）石川 花澤 丹

將兵約二百名參加の 野外自動車調整演習

夏の小名濱町を中心に…… けふから幕ひらく

軍國繪卷

陸軍自動車學校の野外自動車調整演習は既報の如く今二十五日より三十一日迄七日間に亘り小名濱町を中心に擧行されるが一行の先發部隊たる將校下士官以下二十三名を筆頭に續々小名濱に到着、時ならぬ軍國風景を描いてゐる、今回の演習參加部隊は將校、準士官十一名、下士官廿五名、兵百四十四名、幹部候補生十八名、計百九十八名、乘用自動車十五台、裝甲自動車廿台、貨物自動車五十九台、計九十四台の大部隊である、町役場では將兵の宿舍に小學校講堂、武道場教室の一部を開放し更に自動車駐車場には小學校より千五百米離れた小名濱—泉道路側空地一千坪を提供してゐる、尙同演習は郡下一齊に亘つて長驅操作演習及び解体修理作業等を行ふものである

レヂスター盜まる

村內二軒を荒され 玉川の商人連恂々

玉川村住吉雜貨商長瀨左京氏方へ二十三日から二十四日夜未明に至る迄の間に賊が忍び込み店先にあつた現金二十圓在中のレヂスター並に婦人用銀時計を窃取された、更に去る十六日夜も同村吉田某方でレヂスター（現金十六圓在中）が盜難にかゝつた

寄附金詐欺

昨夜の內郷村御台境一の矢神社祭典を前に數日前から平町一丁目地內を軒並みに點燈の寄附金を募つてゐた男があつた、處が當夜に至つて雪洞一つ無いので始めて詐欺にかゝつた事判り屆け出により目下平署で犯人搜査中

過失致死に八十圓

內郷村綴字秋山自動車運轉手丹野正年（二五）は一月二十三日午前十一時頃トラックを運轉して磐崎村下船尾地內縣道を疾走中誤つて自轉車乘りの小名濱町馬上政次（三五）に衝突、腰推骨々折から間もなく死亡せしめ業務上過失致死で此程平區より略式罰金八十圓に處された

亂暴な青年

四倉町新町鳥肉商鈴木太平長男良二（二八）假名－は二十三日夜九時頃同町仲町地內で同町植田自動車部助手猪狩四郎（三）を毆打右眼其他に治療十日間の傷害を負はせ四倉署に檢擧された

銷夏篇 ……（8）……

杉木立を洩るる 深夜の悲鳴

實際あつた獵奇話

萩麥民の倉に滿ちて怨聲無く、村々に午雞朗々と一萬五千石の湯長谷藩は領內の隅々迄天下泰平に治まり返つて居るに、咄何事の妖變ぞ、而も藩公のお膝下たる下湯長谷の片ほとり、里近き鳥館の別段鬼氣漂ふ場所でもないのに、萬籟死して山淸水のせゝらぎのみ際立つて聞える頃になると、毎夜定まつた樣にそこの杉木立から一寸ためし五分刻みの責苦に逢ふ若い女の悲鳴が洩れて來るのであつた

○

百姓士民の恐怖もさる事乍ら、之に因て今にも何等かの天譴地責でも降りかかつて來る樣なデマゴギーが頻りに亂れ飛んでこの無稽にして不吉極まる民衆煽動は旋て領外に及ばんとする勢を示した

○

此際純朴なる民を誑かす憎むべき妖怪變化の息の根を止めて呉れんず、と敢然起つたのが藩中切つての名射手鈴木吉之丞であつた。即ち夜色沈々たるその刻限を見計らひ人皆怏れをなして寄りつけぬその場所に至り、愛用の強弩を滿月に絞つて發するあたり目蒐けて颼と放つた

○

ブーンと唸りを放つて鬪の虛空を飛んだ箭は杉の梢高くガッチリと確實に手應ひがあつた。と忽ち今迄の悲鳴は其時限りピタリ止まつたも道理、それは梢近く相交叉した二本の杉が風のまに〱軋り合つて其所から起る一種の音響だつたのが發矢射込んだ一本の箭に軋りを妨げられ茲に完全に一切萬事が解決したのであつた

○

湯長谷藩第六代の主貞幹公の臣、曾て京の三十三間堂に於て千二筋の矢を續射して其名を得た、將軍御感斜ならず卷物及び金の矢筒を內藤家に賜はつて之を賞した。其後將軍磐城七濱を內藤家に與へて吉之丞を徼さんとしたが固辭して受けず却て窃かに藩公の大藩進出を期した

○

會ま家臣の染山某荒木園昔之を奸み讒ゆるに後室と通ずるを以てす。公之を信じ遂に投獄したが氏監守の隙を窺ひ逃れて父母の墓に詣る、忽ち追手の捕ふる處となり再び獄に投せられ虐遇甚し氏自ら食を絕ちて獄中に死せり、實に寛保二年（一742）三月四日とす

○

死後讒者の家絕え內藤家に子無き事七世、即ち祠を建て之を祀り長松靈明神と號す、墓は下湯長谷長谷寺に在り（磐城古代記）

入遠野縣道改修

地元道路愛護會から陳情

入遠野村道路愛護會大平分團長外幹部は今二十五日平土木監督所に上遠野村根岸より入遠野役場前に至る延長千米（工費一萬圓）の縣道改修方を陳情した

捕はれた泥的三人

平署管內は犯罪の巣

『犯罪の巣』とも云ふべき炭鑛等のある關係から平署のその件數は斷然縣下の親玉だ、きのふも前科男、學校荒し少年等々。泥的三人がふんづかまつた

怪しい影

公園に潛む 前科男泥を吐く

二十四日深更平町松ヶ岡公園を徘徊する怪しい男を平署で取調べると西白河郡吉子川村吉岡生れルンペン前科五犯鹽田淸美（元）去る七日同郡小野田村で氏名不詳のものよりクローム腕時計（價格十圓）外十數點を盜んだ事自白した

小學校荒し二少年

好間村上好間小舘高等小學生松村定吉（一四）假名－は去月十八日同村牛乳搾取業鈴木房吉から現金二十一圓在中の蟇口を窃取した外小學校等から廿件（被害六十圓）の盜みを働き、又同村小舘岡吉雄（一七）假名－は去る十六日午後古河炭鑛プールで同鑛坑夫伊藤靜から現金五圓在中の蟇口を窃取した外これ亦小學校から十四回に亘つて盜む

出刃で脅す「命を貰ふ」と

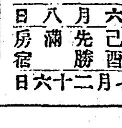
凄文句の土工檢擧

川部村沼部字石畑土工芳賀晴男（三二）は六月十九日午後同村小川芳賀直治方で最近大津町に移轉した直治の兄芳賀庄兵衛（三二）と出合ひ無斷轉居を責め匕首を懐に突刺し『今日は命を貰つた』とやくざ擬きの脅迫を働いた事植田署で探知、目下平檢事局氏家檢事の取調べを受けてゐる

天氣豫報

小名濱測候所

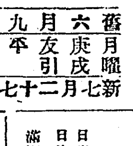
今晩も明日も南の風晴夕立模樣



新暦七月二十六日 日曜 舊六月 己酉 先勝 八滿 日房宿

路判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 住所職業に變りの生ぜぬ樣せらるが肝要▲二黑 上に逆らはず下をいたはる時は相應の吉日▲三碧 人の手引きに依りて新天地に乘り出る吉日▲四緑 營業を大切に守りて焦らず徐々進むに吉▲五黄 表面は至て宜しく見へて實入少なき日なり▲六白 業務繁昌して金運亦盛なる日若實行動に吉▲七赤 事物の輕卒を戒め我意を通さぬやうに注意▲八白 時期を失はざる樣勇氣をこして進み利あり▲九紫 交際を圓滿に且つ金錢出入に誤無き樣注意



新暦七月二十七日 月曜 舊六月 庚戌 友引 九平 日心宿

▲一白 心は跳りて大に成す所あらんとするも失敗▲二黑 根氣負けせぬ樣あかず一事に專念すべし▲三碧 苦勞多しとて弱氣を出さず辛棒するが第一▲四緑 ざ折に屈せず耐忍すれば前途に光明現はる▲五黄 思慮分別さへ誤らざれば平康を保つ▲六白 發展力を有する日にて努むれば目的は成る▲七赤 願望成就すべき幸運の日起業開店商談に吉▲八白 鐵石の志さへ失はざれば不安の念も自めつす▲九紫 氣運佳良にて希望成るものとす怪我は注意

（小名濱測候所發表）

二十六日 日出 四、四〇 月出前 一一、四九 日沒 六、四七 月沒後 一〇、二八 滿潮 前八、二〇 後八、一〇 干潮 前二、二五 後一、二五

二十七日 日出 四、四〇 月出後 〇、四六 日沒 六、四六 月沒後 一一、〇三 滿潮 前一〇、〇〇 後八、三五 干潮 前三、二五 後一、三五

廣告

和洋家具 建具 テーブル 椅子 其他裝飾品一般…… 製作販賣 諸官衙 各學校 御用達 御用命は迅速に御努め致します。 平町五丁目四 片寄小彌太 片寄製作店 電話四八四番

吉例土用丑 牛肉大賣出し 三十日土用丑 滋養豐富な牛肉を是非 平町田町 石川亭 電話四十三番

弊院儀今般都合により元郵便局裏、三町目裏川岸通へ移轉仕り從前通り診療に從事仕り候間右謹告仕り候 平町田町五 明雲堂眼科醫院 新妻幸之助 電六六九

移轉お知らせ 今般左記へ移轉致し候間此段謹告仕り候也 石城郡平町字鍛冶町七番地（鍛冶町中央） 郡山無盡株式會社 平出張所 電話一一〇番

平町田町 井坂產科婦人科醫院 電話五五九番

六丁目 木村外科醫院 電話三〇九番